ともしび

目には見えない仏さまを「ありがたい」と思う気持ち

井上直之（釋直道）

先日、私が教師をさせていただいている茨城農芸学院で、生徒の面接をしていたら、教官の方から「たった今、院生にコロナ陽性反応が出ました」と伝えられ、その場で帰宅しました。

最近、メディアも大きくは報道しないコロナですが、依然として収束していない現実に気づかされました。一日も早い終息を願うばかりです。

さて、昨年から宗願寺の報恩講ではお斎が再開され、成道会ではバザー、会食、コーラス等を楽しみました。マスクを外した、皆さんの笑顔が戻ってきました。

今年になり、２月11日には壮年会のメンバー等で、東京教区仏教壮年会連盟の結成記念日研修会に参加させていただきました。

ご講師のご法話を聴聞するだけではなく、知らない方同志でグループを組んで話し合いをするプログラムがありました。

「自分の子どもにも仏教の教えに触れてもらい、お寺と深く関わって欲しい」という意見もあれば「子どもには自由にお寺に関わる、関わらないを選んで欲しい」「葬儀のときだけしかお寺と関われないのでは信頼が深まらない」等、皆さん話をどんどんヒートアップし、本音で意見を言い合える、とても有意義な時間を過ごしました。

私が特に印象に残っているのはご講師が語られた「明日、明後日も自分が生きていると私たちは思い込んでいるだけで、能登半島地震でお亡くなりになった方々もそう思っていた筈です」という言葉です。

そして、厳しいことも仰いました。「浄土真宗のみ教えは、何もしなくても救われるほど甘くない」という教えです。

生まれたなら必ず死が訪れる私たち人間の苦しみを「必ず救う」と誓われた仏さまに「あ、そう」ではなく「ありがたい」と思う気持ちがあってこそ救いが成立するということです。

仏壮研修会
２月11日　築地本願寺にて

自分の物差しで損得を計り、煩悩を抱える私たちには、目に見えない仏さまを「ありがたい」と思う気持ちが大切なのだと気づかされました。

今年はいつも通りの永代経をお勤めさせていただきたいと思います。お浄土に往かれた多くのいのちを偲び、仏さまのみ教えに触れ、皆さまとともに手を合わせられたらと存じます。

最後になりますが、６月22日に茨城東西組共催「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」という大きなイベントが水戸市民会館で開催されます。

私は音楽法要の指揮をさせていただきます。

宗願寺からはバスで会場に向かいますので、参加を希望される方がいらしたら、是非お声がけください。よろしくお願いいたします。

（住職）

花まつり（子ども会）
4月14日（日）　11時

宗祖降誕会
4月29日（月）　11時

全戦没者追悼法要
8月15日（木）　18時

恵信尼公法要・敬老会
9月16日（月）　11時

千鳥ヶ淵・全戦没者追悼法要
9月18日（水）

仏壮・結成記念日研修会報告

福島　慶久

２月11日（日）、東京教区仏教壮年会連盟主催による結成記念日研修会が、築地本願寺にて開催され、住職、宗願寺仏壮メンバー等の合計十名で参加しました。

毎年二月のこの時期に行われていた結成記念日研修会も、コロナ禍の影響を受けて、令和二年、築地本願寺での研修会を最後に休会となっていました。

コロナの感染拡大がなければ、令和三年には茨城東西組が主催者となり、茨城での研修会が予定されていましたが、以降延期が続き、四年ぶりにおこなわれたものです。

今回の主催は静岡西組が担当、通例の一泊研修を断念し、築地本願寺での日帰り研修となりました。

当日は、東京教区内の各寺院から百名超の出席がありました。

研修にあたっては、仏壮連盟講師の義本弘導師が「仏壮活動をアップデート～立教開宗八百年を機縁として～」とのテーマでのご法話を聴聞しました。

また、法話後のグループワークでも、各自の自己紹介後にお寺との関わり方や普段の活動等について、皆が意見を述べ、各々聞き合う形式で行われました。

宗願寺における活動や行動も、最近ようやく以前の状況に戻りつつあるところですが、ご本山や築地本願寺でも、少しずつ諸々のイベントが復活しています。

今年は、茨城東西組共催の慶讃法要が水戸で開催され、宗願寺でもバスをチャーターして皆で参加する計画です。

また、コロナ禍で中断していた組の連続研修会も二月から再開されました。

コロナ禍では生活様式が大きく変化し、皆での交流が閉ざされて、多くの集う機会が失われる状況が長く続きました。

ようやく晴れ間が見えだしたところですが、災害や戦争等、新たな社会問題が起こり、ますます人と人との絆や縁の大切さについて、あらためて気づかされています。

今後、お寺を通じた交わりの機会を増やすべく、壮年会としても何らかのイベントを企画し、皆での講習や連携が図れる機会を設ける考えです。

イベントについては、宗願寺ホームページ等を通じて募集を行いますので、ぜひご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

（宗願寺仏壮会長）

参加者募集

茨城東西組共催
親鸞聖人御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃音楽法要

6月22日（土）
水戸市民会館にて

午前9時宗願寺集合

参加費　三千円

※参加希望者は、お寺までご連絡ください。

最近の私のことなど

井上由美子（釋 由 真）

２月７日に七十二才になりました。父が亡くなった齢です、まだまだ未熟な自分に驚くような思いがあります。幼い頃、大人は何でも知っている賢い存在だと信じていました。そんなことはないのだと知った今、未熟なまま頑張っていた父母を懐かしく思う気持ちで胸がいっぱいになります。

足が悪くなって十年以上経ちました。１月14日の朝、ついに歩行困難になり、病院へ予約を入れました。四月に両膝の人工関節手術が決まり毎日手術前のリハビリを頑張っています。

執刀してくださる先生にすべてお任せする、と心に決めて、前向きな気持ちになりました。

元旦の「令和六年能登地震」で友人が被災しました。彼のお寺は本堂半壊、庫裡全壊との知らせにショックを受けました。その後、仲間で連絡を取り合い、お見舞いを送りました。

友人からのお礼の手紙には「激しい揺れにみまわれ、一時は避難所へ避難しました。ようやく自坊に戻ったときの無残な様子には愕然いたしました」と綴られていました。

それでも「今では気持ちも切り替えて、ご門徒の皆さまと復旧作業を頑張っていますので、どうかご安心ください」とあり、安堵しました。

同じことが私の身に起こったらと考えます。

六月に亡くなった父は、その年の一月に起きた「阪神大震災」の様子をテレビで見ながら泣いていました。被災しても、自分にはもう立ち直るための頑張る力がない、と話す父を見ながら「お父さんらしくないな」と思ったことが忘れられません。

友人は私より二十才以上若いし、まだまだ頑張れることでしょう。でも、年齢を重ねた私は、当時の父の気持ちがよく理解できるようになりました。

コロナ禍による自粛が続き、お寺の活動も制限されていました。皆さんと一緒に食事ができるようになった今、質素な物であっても一緒にいただく喜びを感じています。お料理が好きなので、足が治ればお斎作りやバザー等、思い切り働きたいと思っています。

手術で入院中のお寺のことが心配です。七十年以上お寺を離れたことがない私です。住職、坊守、婦人会や壮年会の方々、皆さんにお任せして、治療に専念してまいります。

（副住職）

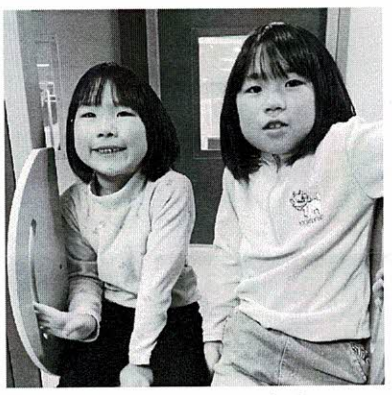
仏教壮年会
第２土曜日　午後６時

仏教婦人会
16日　午後１時半

宗願寺合唱団の練習
第３日曜日　午後２時半

彩弥（さや）と弥那（みな）との日々

井上明寿子（釋 妙 寿）



彩弥（右）弥那（左）

ある日、テレビでパレスチナの紛争を観ていたときのことです。人々が避難し、武装した兵士が銃を撃ち合う様子が映されていました。

突然、弥那に「この人たちは何をしているの？」と聞かれました。私は紛争の理由を知りたがっているのだなと思いましたが、うまく説明できず黙っていました。

一緒にテレビを観ていた彩弥もじっと私を観ているので、時間をかけて今人と人が殺し合っていること、戦場では敵と味方だけれど、正義と正義の衝突であること、その原因が国や考え方の違い、資源の争奪など、ひと言では説明できないことをできるだけ分かりやすく話しました。

私たちは「一生懸命やってうまく行かなかったときにどうするか」という基準が揺らぐ生き物です。だから絶対の正義はありません。

子どもたちには方便を使いましたが、親鸞聖人は、そういった人間の不完全さを「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」とお示しになりました。

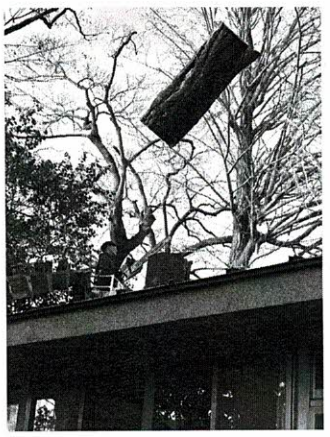
これは、弟子の唯円が「親鸞聖人の言葉には背きません」と言ったときに「では人を千人殺しなさい」と命じられた有名な一説です。

唯円が「それはできません」と断ると「ではなぜこの親鸞の言葉に背かないと言ったのか。これで分かっただろう。どんなことでも自分の思い通りになるわけではない。自分が善人だから人を殺めないのではなく、そのような縁がなかっただけである。縁によっては何をするか分からないのが私たちなのだ」と諭されました。

戦争や争いの最中にいなくても、私たちの手に負えるのは僅かな自分なのでしょう。娘たちと手を合わせながら、変わらない拠り所があること、救いがあることのありがたさを忘れずにいたいと思う日々です。

（坊守）

境内の大木伐採について



以前、集会所の屋根を壊した古い大木やその木を切るためのクレーン車の通り道にある木々を数本根元から伐採しました。境内の安全確保のための作業です。

編集後記

２月12日、集会所で、坊守発案の「スイーツ講習会」が開かれました。大人と子ども合わせて二十名程が集まり楽しい時間を過ごしました。新しい企画、大賛成！です。

ご講師は壮年会の塚原義和さん。元ホテルオークラ東京パティシエから、バザーで人気の「ガトーショコラ」と、「自宅で簡単にできるクレープシュゼット」を教えていただきました。

お彼岸の後、京都・大谷本廟に納骨と、ご本山参拝の小旅行を計画しています。母が元気だった頃は、毎年のように門信徒の皆さんと京都旅行をし、ご本山にもお参りしていました。

旅行代金の高騰、京都は外国からの旅行者で大変混み合っているなど、時の流れを感じて驚いてばかりのおばあさんになりました。

新しいことと親の時代から守ってきたこと、両方を大切にしたい、と常に考えております。

ご協力お願いいたします。合掌

（由美子）

発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
（印刷所・阿部印刷）

宗願寺ホームページ

宗願寺ウェブサイトURL
https://sougwanji.com/